

深イ～話！

No.68

『人生の波に乗る人乗れない人』たちばな出版 七澤友一郎氏の心に響く言葉より

百匹働きアリがいると、必ずその中の 20 匹は働かないで怠けているということをご存知でしょうか。

皆が働いているときに働かずにノラクラしている怠け者のアリ



「それじゃ、しょうがないからあっちに行ってもらおう」と、その 20 匹をどけると

80 匹になります。すると、またそのうちの 2 割は働かなくなってしまう。

これは何匹にしても同じことで、必ずそのうちの 2 割は働かない。

そういう面白い習性がアリにはあるそうです。

これは、アリだけでなく、たとえばサーカスの虎でも似たようなことがあるそうです。

これはムツゴロウこと畑正憲さんが体験した話で、大体次のようなものです。

あるサーカスに 10 匹の虎がいました。

8 匹はシベリア産の虎で、2 匹はインド産です。

シベリア産の虎は非常に俊敏で頭がよく、芸をすぐにマスターします。

ところが、インド産の虎は怠け者で頭も悪く、ちっとも芸を覚えません。

「どうしてこんな物覚えの悪い虎を置いておくんですか？ 全部シベリア産に

すればいいじゃないですか」とムツゴロウさんが質問しました。

するとサーカスの人は、

「いや、これでいいんです。全部をシベリア産にしまうと、みんな神経過敏だから苛立ってすぐにケンカを始めてしまいます。インド産のノラクラが 2 匹いるお陰で、なごやかな雰囲気になって全体の調和が保たれているんです。」と答えたということです。

これは組織を運営する上で大きなヒントとなる、「2-8 の法則」とか「パレートの法則」とも呼ばれるものです。会社組織など人間社会も同様で、「誰かがやってくれているうちは動かなくてもいいじゃない」など、判断する方が現れてしまいます。予備軍的存在という。でも、やる者がいなくなると組織を維持するために働きだす者が現れる。とても不思議な法則ですね。

